

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任

水野 高代治

B.C.・・・(ビフォー・コロナ)

歴史の授業でB.C. (紀元前) を学びました。キリストが生まれる前をビフォー・キリストということでB.C.と表記します。キリスト教が確立した前と後では世の中が大きく変化したということで、西暦では、キリストの誕生を紀元として節目としています。

現在、猛威を振るっている新型コロナウイルスですが、世界的規模で社会の在り方を大きく変えました。学校も会社も地域もあらゆる生活の舞台でその在り方に変化をもたらしました。外出する時には、マスクの着用が必然となりました。会社に出勤せずに、家でリモートで会議をしたり、ネットワーク上で文書のやり取りをすることが日常となりました。学校においても、この二年間で校舎内にWi-Fiが引かれてネット環境が全面的に完備されました。それに伴いクロムブックを全校生徒に渡して、リモートによる授業やネットを利用した調べ学習が日常的に行われることになりました。長く欠席する場合などは、クロムブックを家に持ち帰りリモートで授業を受けることが可能になりました。実際、毎日、城山中学校ではリモートによる授業が行われています。

新型コロナウイルスが収まっても、リモートによる授業や会社の会議などは、どんどん広まっていくと思います。社会そのものの形が新型コロナウイルスの問題によって変化したと思います。新型コロナウイルスの問題が起きる前の社会をB.C. (ビフォー・コロナ) と呼ぶ人も出てきたようです。

これからは、IT機器を自由に使いこなす知識と技術は最も大切な力の一つとなります。新型コロナウイルスがそれを進めました。1学年では、毎日の連絡を情報委員会がクロムブックを活用して、教室のモニターに映し出して連絡しています。また、情報委員は委員長の高橋君を中心にアプリのスライドを使って情報を共有化して各クラスに一斉に明日の連絡事項を発信するシステムを考えくれました。これによって、帰りの会では各クラスのテレビのモニターに共通した連絡事項が確実に映し出されるようになりました。自分たちでIT機器を使いこなす、とても良いと思います。生活の場面でも授業の場面でもどんどんIT機器を活用して情報教育を充実していきたいと思います。

新型コロナウイルスで大きく変化していく社会をしっかりと見据えて、アフターコロナの社会に活躍できるように社会の変化に注視していきましょう。